

圃場改良を実施しました！（越前水仙 Reborn プロジェクト）

圃場改良の概要

「越前水仙 Reborn プロジェクト」の第3弾として生育不良を改善するため、水仙畑の圃場改良を実施しました。圃場改良後、改良効果を検証するために栽培試験・生育調査を始めました。

圃場改良検討会

令和4年度8月5日、生育不良の水仙畑の圃場改良案を検討するため、「圃場改良検討会」を実施しました。検討会には福井県の有識者や生産者、圃場調査業者の方々に集まっていただき、圃場調査の結果をもとに、生育不良の原因、圃場改良案について意見を交わしました。その結果、以下の案にまとまりました。

生育不良の原因と考えられること	改良案
(1) 土壌に埋まっている石が多い	(1) 地下 30cm までに埋まっている石の撤去
(2) 土壌が硬い	(2) 堆肥等有機物の施用
(3) 土壌 PH が低い	(3) 土壌 pH の調整、必要栄養素の補給

(1) 石撤去工事

この圃場は土壌中に石が多く存在しており、スコップを入れるとすぐに石にあたります。このような圃場で水仙を栽培すると、根が石にあたってしまい、伸長が抑制されたり、傷ができて病気にかかりやすくなったりします。その結果、生育不良の一因となっていると考えました。また、水仙の根は 30cm～40cm まで伸びるため、十分に根が張れるように、地下 30cm までの石の除去を行いました。

工事は、令和4年9月1日、2日に行いました。実際に掘ってみると地下 30cm までに多くの石が見つかりました。



石撤去工事



整地



圃場から見つかった石



工事後

(2) 堆肥等有機物の施用

生育の良い水仙畑と比較した際、最も大きく異なった点が土の硬さでした。生育不良の水仙畑はとても土が硬く、一般的にみても根の生育が抑制される程の硬さのため、土を軟らかくさせる必要があります。土の硬さを改善させる方法として、堆肥等の有機物の施用を行いました。ただ、有機物といっても様々な種類があり、効果も異なるため、土を軟らかくさせる効果の高さや費用面から、腐葉土、バーク堆肥、牛糞もみがら堆肥を選びました。これらのお効果を比較・検証するために試験を行います。

令和4年9月22日に土壤改良資材を散布しました。下記の3種類の資材を試験区ごとに分けて散布しました。



腐葉土



バーク堆肥



牛糞もみがら堆肥

(3) 土壌 pH の調整、栄養素の補給

化学性の分析を行った結果、土壌 pH が低く、酸性寄りの圃場であることが分かりました。水仙の栽培に適正な値よりも低いため、石灰資材などで土壌 pH を高める必要があります。また、その他の栄養素については、特に不足しているものはないものの、球根の肥大に必要なりん酸は補給したほうが良いと判断しました。

令和4年9月22日、堆肥と同じ日に散布しました。